

Vol.003

15 June, 2020

Plaza 通信 Vol.003
の内容

- ◇ 災害と外国人、災害に強い
多文化共生の地域づくり
- ◇ 外国人住民とのコミュニケ
ーションツール

6月 対面相談再開

外国人総合相談プラザでは、多言語相談員や専門家による対面相談再開しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止と予防のため、2月22日（土）より中止していました相談プラザでの多言語相談員や法律、在留資格、就労、居住などの専門家による対面での相談を、6月から再開しました。

多言語相談：

中国語（火、水、金、日）、ドイツ語（水）、韓国語（木、第3金）、スペイン語（第1金）、タガログ語（第1水）、ベトナム語（第3水・日） 英語・日本語（毎日）

専門相談：

在留資格（第2水、第3日）、労働環境（第2火）、就労（第2水）、居住（第3水）、法律（第3日、前日までに要予約）

詳細・開設時間などは下記へ：

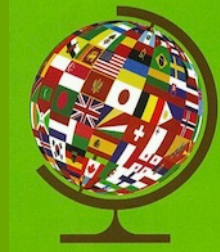
熊本市国際交流振興事業団
860-0806
熊本市中央区花畑 4-18
熊本市国際交流会館2階
TEL 096-359-4995
e-mail

soudan@kumamoto-if.or.jp



ホームページのQRコード

ぶらざ つうしん Plaza 通信



たぶんかきょうせい かんが
～多文化共生を考える～

◇ 災害と外国人、災害に強い多文化共生の地域づくり

昨年(2019)は、1月3日に熊本での最大震度6弱の地震に始まり、北海道胆振地方中東部地震(2月21日、最大震度6弱)、九州南部、北部、西日本を襲った度重なる豪雨、また、夏から秋にかけて、台風15号、19、21号が関東地方に大きな被害をもたらしました。今年は、新型コロナウイルスが全世界で猛威をふるっています。そして、6月に入り、梅雨が始まろうとしています。このタイミングで、日本での災害時に外国人が、日本人以上に弱者になる可能性があること、また、弱者にしないための地域づくりについて考えたいと存じます。

熊本市地域防災計画では、災害時に配慮や支援が必要な人として、外国人の方々を言葉や文化・習慣の違いから要配慮者と規定しています。在住年数や出身国・地域によって、その災害や非難に関する知識には違いがありますが、次の3点が「災害時における外国人の課題」となります。

(1) 日本語が十分に理解できない。(言葉の壁)

* 日本在住歴が長い外国人住民にとっても、災害時に使われる“給水”“配給”“不通”などの単語は普段の生活では使われないため、理解できないことがあります。

* 避難所は日常とは異なる環境であり、外国人にとって、放送される日本語は理解することが難しく、とっさに反応する日本人の行動にストレスを感じることがあります。また、避難所で出される漢字まじりの(ふりがなもない)情報は理解できないことがあります。

(2) 災害や避難所に関する知識がない。(出身国の災害文化、防災訓練経験の違い)

* 外国人住民の出身国・地域によっては、地震や風水害を経験したことがない方々がいらっしゃいます。経験がないと実際に災害が起きた時に、どのような対応すべきか分からず安全を確保する行動ができません。

* 災害が少ない国・地域出身の外国人は避難所自体を知らないことがあります。また、避難所の知識があっても、学校や公民館など公的施設が避難所となることを知らない外国人住民もいます。さらに、避難所では、食料や物資が無償で平等に配布されることを知らないこともあります。

(3) 生活習慣の違いや多様なニーズから避難所生活にストレスを感じることもある。

* イスラム教やキリスト教など信仰深い外国人住民はお祈りや食習慣など戒律が守れない避難所生活に大きなストレスを感じます。

* 不安を紛らす音楽などが日本人避難者には不謹慎に映り、外国人避難者への苦情、排除、差別となることがあります。

裏面へ

KIF-日本語 教室 再開！

多文化共生の社会づくりにおいて、外国語でのコミュニケーションに比べ、やさしい日本語は外国人・日本人住民双方にとって理解し合うための重要なツールです。KIFでは、外国人住民と日本人の日本語支援ボランティアが日本語でおしゃべり交流をとおして、生活に必要な日本語を学ぶことができる**地域日本語教室**を、国際交流会館をはじめ、武蔵ヶ丘(菊陽町西部町民センター)、東部公民館、田崎市場会館などで開催しています。

新型コロナウイルスの感染防止のため2月後半から活動中止となっていました。6月後半より徐々に再開することになりました。国際交流会館では、6月23日(火)から自習とボランティアデスクでのQ&A方式で始めます。各教室の状況はホームページ、またはお電話でお問い合わせください。

KIF = 熊本市国際交流振興事業団

電話 096-359-2121



KIFの日本語教室
情報のQRコード

⇒表面から

これら災害時に外国人が抱える課題を解決するには、外国人住民自身が災害に関する知識を身につけ、日頃から備えておくことが必要です。一方、彼らを受け入れる私たち地域や企業が外国人住民を孤立させないことが重要になります。そのためには、外国人住民の課題を理解し、特性に配慮・対応しながら、日頃から外国人・日本人住民間の支え合う関係づくりをしておかなければなりません。例えば、外国人住民に地域のお祭り、スポーツ大会や清掃活動に参加してもらうこと、地域のイベントに外国人住民が中心になって参画できるエスニック料理教室を開催していただくなどができるでしょう。少なくとも、地域や企業・団体の防災訓練に、日本人・外国人住民一緒に参加することで、外国人特有の課題を小さくしていけると考えられます。さらに、このような多文化共生の地域づくりが推進すれば、外国人住民は弱者ではなく、高齢者、障がい者、小さな子ども、妊婦など災害時に援護を必要とする人たちを支える側になることが可能です。

相談プラザでは、外国人住民の方々よりの相談に加え、外国人住民の方々が暮らす地域や雇用する企業・団体よりの相談を受け付けています。時節柄、梅雨での大雨や高温多湿が発生する恐れがありますので、近くにお住まい、また、同じ職場の外国人住民の皆さんと気象情報など情報共有をしていただくようお願いいたします。

☆ 災害時に活用できる外国人住民とのコミュニケーション ツール

双方向のコミュニケーションが重要

多言語情報を届けるだけでは外国人住民は、理解できてもどのように行動してよいかわかりません。安全な行動をするには、回りの日本人とのコミュニケーションが必須です。コミュニケーションツールの一つとして、AIやITの発展による多様なアプリが活用できます。

災害時に活用できるツールの紹介

機械での自動翻訳技術は進化し、パソコンやスマートフォンで活用できる様々なアプリケーションが開発されています。本 Plaza 通信では、国の省庁や関係機関で開発された3つのアプリケーションをご紹介します。

- (1) 情報通信研究機構多言語音声翻訳アプリ「ボイストラ」(無料)
<https://voicetra.nict.go.jp>
- (2) 一般財団法人自治体国際化協会「災害時多言語情報」(無料) <http://dis.clair.or.jp>
- (3) 気象庁「多言語辞書」(無料) <https://www.data.jma.go.jp/developer/multilingual.html>



ボイストラの
QRコード



災害時多言
語情報のQR
コード



多言語辞書
のQRコード



熊本市の在留外国人(6月度速報)

在留外国人数/総人口 6,675人/732,575人(外国人比率 0.9%)

5月の
相談プラザ
相談件数
104件